

情報かわら版

8



今月の表紙：佐渡島黒豚（佐渡市）

特集

新潟県拠点「みどり戦略取組グループ」 連載第4回

- ・ 第9回にいがたオーガニックフェスタ開催！
- ・ 有機農産物生産者紹介 ～ イチカラ畑（小千谷市）～

トピックス

- 佐渡島黒豚 放牧養豚家を訪ねて～ 米澤正輝さん（佐渡市）～
- 需要に応じた米生産の部屋
～ 主要産地における主食用米需要量の推移 ～
- 「モ～っとミルクちゃん」津南ひまわり広場で今年も大活躍！

お知らせ

- オンラインコミュニティ「みのりボイス」参加者募集中！
- BUZZ MAFF【密着】農福連携って知っていますか？

電子版はこちら



新潟県拠点みどり戦略取組グループでは、地域で有機農業に取り組む生産者の皆さまを取材し、日々の工夫やこだわり、農業にかける思いなどを連載形式でご紹介していきます。

今月は、小千谷市の株式会社 イチカラ畑 の取組をご紹介します。

次ページへ



みどり情報

第9回 にいがたオーガニックフェスタ開催！



新潟県内各地で、有機農業や自然栽培に取り組む生産者と消費者が出会い、学び、つながるイベント「**にいがたオーガニックフェスタ**」が今年も開催されます。会場では、有機農産物の販売、試食などを通じて、地域の食と農の魅力を体感できる内容が盛りだくさん。ご家族で楽しめる企画も予定されています。北陸農政局では、**長岡、新潟、阿賀野、上越**の各会場で「+みどり計画」に係るブースを展示します。ぜひ、お近くの会場へご来場ください！

【 開催日時 ・ 会場 】

柏崎 会場



9月23日(水・祝)

11:00-15:00



柏崎市文化会館
アルフォーレ

長岡 会場



10月11日(日)

10:00-15:00



アオーレ長岡
ナカドマ

新潟 会場



10月25日(日)

10:00-15:00



新潟ふるさと村
イベント広場

佐渡 会場



10月25日(日)

10:00-15:00



あいかわ開発
総合センター

燕三条 会場



11月7日(土)

10:00-15:30



三条市
体育文化会館

新発田 会場



11月8日(日)

10:00-15:00



ヨリネスしばた
札の辻広場

阿賀野 会場



11月14日(土)

10:00-15:00



道の駅あがの

上越 会場



11月15日(日)

10:00-15:30



謙信公武道館

妻有 会場



11月21日(土)

10:00-15:00



段十ろうホール前

「第8回（2025年）にいがたオーガニックフェスタ」 会場の様子



長岡会場



新潟会場



阿賀野会場



上越会場

そばの栽培を通し 地域再生のきっかけづくりにも貢献 株式会社イチカラ畑（小千谷市）



▲ 吉田 勇童 代表取締役



▲ 真っ白に咲き誇るそばの花

「イチカラ畑」のご紹介

現役のプロスノーボード選手として活躍中ですが、中越地震の復興に関わっていた時に、閉鎖した牧場の活用者を探している話を聞き、自然の中での仕事や食の安全性に興味があったことから、農業知識ゼロにもかかわらず「知らないからこそならでは」の勢いで農業へ参入。地域産品である「そば」を有機栽培することからスタートしました。

- ・代表者：吉田 勇童 代表取締役
- ・事業内容：そばの生産・加工・販売
- ・主な取扱い商品：そば（乾麺、生麺）、そば粉、そばの実、麺つゆ、はちみつなど
- ・従業員数：12名
- ・経営面積等：50ヘクタール
- ・ホームページ：<https://ichikarabatake.com>



なぜ有機JAS？

有機栽培は慣行栽培に比べ、面積当たりの収量が少なくなるので、そばの生産だけでなく、商品の製造・販売も行うことにし、さらに、商品に付加価値を付けるために有機JAS認定を取得しました。



▲ 伐採木の加工作業



▲ 導入した大型刈取機

こだわり・工夫

- ・農薬や化学肥料を使わない有機栽培でそばを栽培しています。自社で生産、加工、商品づくり、販売を行っています。（一部、乾麺は委託加工）
- ・昨年までは、夏そば、秋そばの2期作でしたが、今年からは、生産性向上、作業負担軽減、リスク管理のため、は種時期をずらして3期作での栽培にします。また現在は、アメリカ製の大型刈取機を購入し作業の効率化を図っています。
- ・農業のみでなく、観光客（関係人口）誘致につながるよう山の再生事業を行っています。開墾した土地に、観賞用の「ひまわり」や「菜の花」を植え、景観にも配慮しつつ伐採した樹木でウッドデッキを作ったり、チップにして遊歩道の整備に使用することで、木材の再生利用にも努めています。

今後の展望等

地域や行政とも協力しながら山を再生することで、関係人口増加に結び付くよう、農業と観光を近づける取組を進めていきたいです。

～これから有機農業を目指す生産者へ～

有機農業を個人で行うより、「地域と一緒にやる」という気持ちで、地域を巻き込んだ取組を考え、実践していく方が勢いもついて、取り組みやすいと思います。



▲ 販売商品（販売商品一部掲載）

（令和8年6月取材）

佐渡島 黒豚

放牧養豚家を訪ねて



楽しんで放牧養豚を営んでいる米澤正輝さん

佐渡市佐和田地区で国内でも珍しい放牧養豚をお一人で行っている、米澤正輝さんにお話を伺いました。

「佐渡島黒豚」として親しまれたブランドは令和4年に一度終了しましたが、その再生に挑戦中です！

現在の経営状況

約30aの敷地に4つの飼育小屋を設置し、繁殖豚3頭（雌のみ）、繁殖用に育成中の2頭（雄雌）、肥育豚5頭の合計10頭を飼養しています。全て「バークシャー種」です。3頭の繁殖豚は、令和4年に経営継承して以来の相棒「つぶちゃん」（これまで3回の出産を経験）とその子供の中から後継豚として選ばれた「ななちゃん」と「あんちゃん」です。この2頭は8月から9月に初産分娩の予定です。繁殖用の育成豚は2か月齢で長野から導入しました。

今のところ養豚だけでは生活できないので兼業をしています。佐渡市には食肉処理施設が無いので、本土に出荷し処理したものを島内に戻して地元レストランで使ってもらっています。



道路の両端にある飼育小屋と放牧場



当初からの相棒「つぶちゃん」

放牧養豚の特徴

放牧場での運動や自然のエサ（牧草・昆虫など）の効果か子豚の成育も良く、強い子になります。

生まれて3か月くらいまで自然哺乳をするので、子豚用飼料に係る経費を抑えられます。

電気設備もなく、飼育小屋も簡易なので経費はかかりません。



現在の課題と今後

課題は、食肉処理を本土でせざるを得ないためコスト（特にフェリー等での運搬費）が非常に大きいことです。

これまで人工授精でやってきましたが、繁殖用の雄が育ったら本交を試したいです。飼料の一部には、島内の酒造会社から米ぬかを入手し与えていますが、主体の濃厚飼料にはこだわってこなかったもので、肉質に関わるものだけに、今後は考えていきたいです。

一人でやっているもので、簡単には規模拡大できませんが、収入が見合うようになれば養豚専業への移行を考えたいです。

放牧養豚への思い

自分としては好きだからやっていることなので、楽しいです。もし、誰かが本土で取り組みたいとなると、地域での問題も出ると思いますが、楽しくできるようなといいなと思います。

品種の特性

バークシャー種

- ・イギリスのバークシャー地方で古くから肉豚として重宝されてきた品種です。
- ・容姿は黒色で、顔・四肢・尾先に白いポイントカラーがあります。
- ・生体重はランドレース種やヨークシャー種に比べ、100kg近く少ない約250kgと豚の中では小柄です。

〔肉質〕

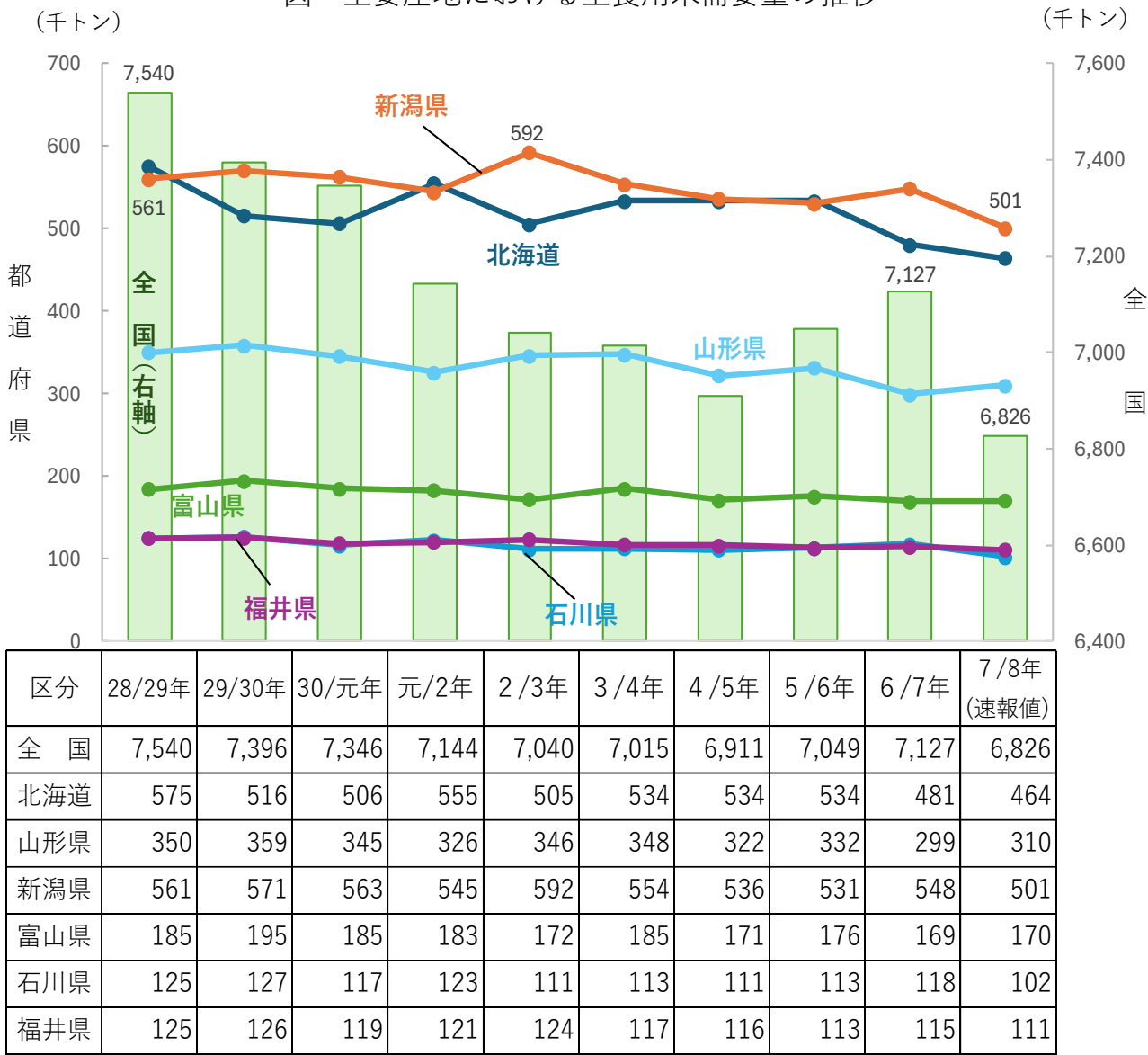
- ・赤身のきめが細かく、うま味が濃い。
- ・脂肪の質が良く、口どけが良い。
- ・ほど良い弾力があり、調理しても味が落ちにくい。



需要に応じた米生産の部屋 ～主要産地における主食用米需要量の推移～

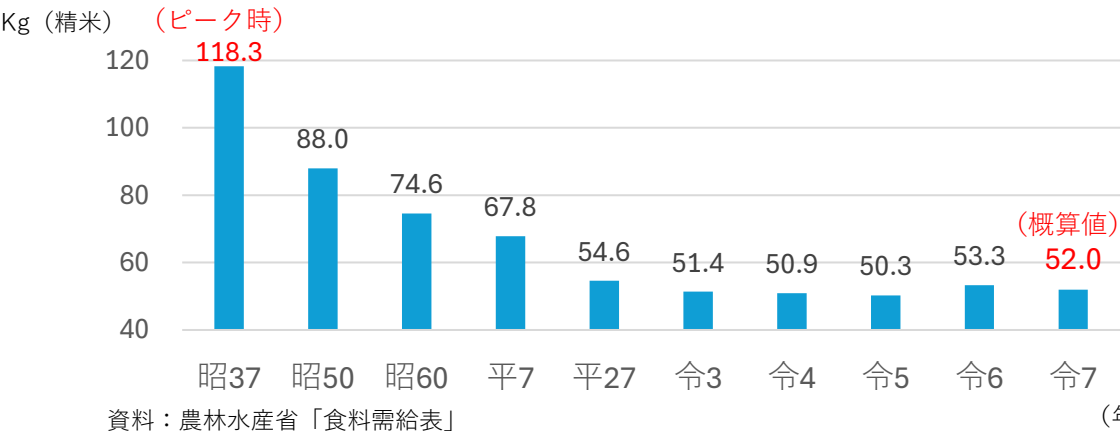
- 令和7/8年(令和7年7月から令和8年6月までの1年間)の全国の主食用米需要量は683万トンで、前年に比べて30万トン減少しました。
- 新潟県の令和7/8年の主食用米需要量は50.1万トンで、前年に比べて4.7万トン減少しました。過去10年間で最も需要量が多かった令和2/3年の59.2万トンと比較すると、9.1万トン(15%)の減少となっています。

図 主要産地における主食用米需要量の推移



資料：令和8年7月の米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針をもとに北陸農政局新潟県拠点で作成

【参考】国民一人1年当たりの米の消費量の推移



資料：農林水産省「食料需給表」

田んぼの“今”を みんなで共有しよう

みのりボイスは、スマホで田んぼの情報を投稿・共有できる、
無料の「**水稻情報共有コミュニティ**」です。

この取組のメリット

- 病虫害・気象被害・生育の遅れなど、地域で今おきていることを**地図で確認**(**地図機能は8月末開始予定**)。先手を打って、自分の田んぼの管理や営農の判断にすぐ活かします。
- そのほか、①田んぼの状況(生育・病虫害・気象被害・鳥獣害など)をスマホですぐ投稿、②農家向けの天気 予報やお米・農業ニュースのチェック、③自分の過去の投稿をマイページでいつでも確認、が可能です。
- 生産現場から寄せられるリアルタイムな情報が、農林水産省の「水稻収穫量調査」の精度向上につながります。



参加方法

● 公式LINEで登録



- ① 二次元コードを読み取る
- ② ニックネーム・メール・郵便番号を登録
- ③ 田んぼの状況を投稿

✓ 安心して参加できます

- ・ニックネームで参加でき、本名は不要です。
- ・投稿地点は郵便番号をもとにした代表地点。個人を特定しにくい形で扱います。

【お問い合わせ先】北陸農政局新潟県拠点 統計担当 TEL 025-224-1441

「モ～っとミルクちゃん」

津南ひまわり広場で今年も大活躍！

7月24日(金)から8月16日(日)に津南町の「津南ひまわり広場」で開催されたかかし展示に、新潟県拠点畜産担当が制作した「モ～っとミルクちゃん」が今年も登場しました。

連日の厳しい暑さにも負けず、3年目となる今年もひまわり畑の中から、夏場の牛乳の需要拡大をアピールしました。



立ち並ぶ「かかし」を見学する皆さん



R8年の「モ～っとミルクちゃん」

会場では、お子様連れの来場者から「かわいいね。もっと牛乳を飲もうだって。」などの声も聞かれました。

まだまだ続くHOTな夏にCOOLな牛乳を！

BUZZ MAFF ばずまふ【密着】農福連携って知っていますか？

BUZZ MAFF(ばずまふ)は、農林水産省職員が、その人ならではのスキルや個性を生かして、我が国の農林水産物の良さや農山漁村の魅力を発信する動画チャンネルです。

今回は、新潟県上越市名立区などで農福連携に取り組む(株)AGRIKOと、提携先の社会福祉法人「かなやの里ワークス」にご協力いただき、アスパラガスの収穫体験などを取材させていただきました。

本動画を通じて、より農福連携に興味を持っていただけたら嬉しいです。



動画はこちらのURLまたは
二次元バーコードからご覧ください。
https://www.youtube.com/watch?v=d4_E0h1lOt4



BUZZ MAFF チャンネルの登録 &
動画に「いいね」をお願いします！



編集後記

令和8年熊本地震により被災された皆さまに、心からお見舞い申し上げます。

今回、過去10年間の主要産地における主食用米の需要量の推移を調べました。令和7/8年産では新潟県の需要量の落ち込みが大きいようです。

「日本一のコメどころ」に住む私としても、もっとおコメを消費していかなければならないと改めて感じました。手始めに、お店に並んでいるコメが使われた食品を探して購入したいと思います。

お問い合わせ

北陸農政局新潟県拠点では、「現場と農政を結ぶ」業務を通じて、地域の皆様にタイムリーに農政に関する情報をお伝えするとともに、農業現場の抱える課題や農政に対する意見をきめ細かに汲み上げ、各種施策につなげていくこととしています。

地域の農業者（地域の担い手や若手農業者、女性農業者など）の方の集まり等で、「**農業施策の〇〇について聞きたい。**」といったご要望がございましたら、直接伺ってご説明いたします。ご遠慮なく、お気軽に下記へご連絡ください。

北陸農政局新潟県拠点 地方参事官室

〒951-8035 新潟市中央区船場町2-3435-1

TEL 025-228-5216

ホームページ <https://www.maff.go.jp/hokuriku/nousei/niigata.html>

新潟県拠点HP
はこちら▼

